



東京コンソーツ

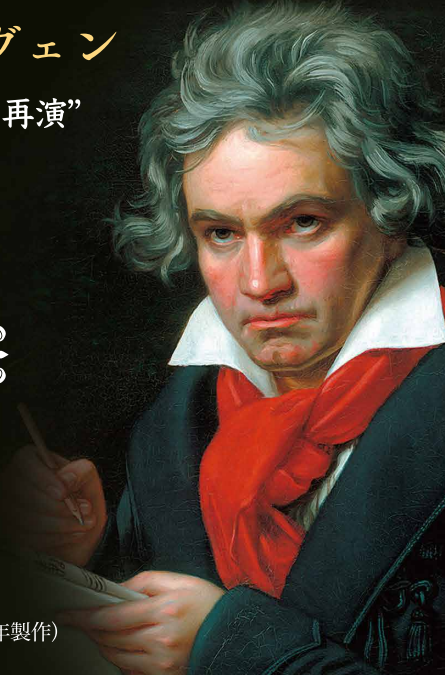
江戸時代のモーツァルト・ベートーヴェン

“モーツァルト／ベートーヴェン時代のピアノと室内楽の再演”
ピリオド楽器によるピアノソロと五重奏曲



オーボエ／小野智子 クラリネット／柴欽也 ファゴット／鈴木禎
ホルン／今瀬康夫 フォルテ・ピアノ／伊藤深雪

ヤコブ・ヴァイメス (Jacob Weimes: 1767-1830) によるオリジナルのフォルテピアノ(1811年製作)



現在世界で広く親しまれているモーツァルト／ベートーヴェンの音楽は200年以上前に作曲されている。しかし産業革命以前に作られていた楽器は、それ以降とは大きく異なり、すべて手作業で代々親方の下で作られている。ピアノの弦を叩くハンマーも小さく鍵盤の数も約6オクターブしかない。そして木管楽器も金属の部品はほんのわずかしかなかく、シンプルな造りで演奏されていた。当時の作曲家は、その楽器の音色をイメージして作曲しているのだ。今回登場の東京コンソーツは当時の楽器、またはその複製楽器で当時の作曲家のイメージした音色そのまま演奏を目指すアンサンブル。

よく知られたモーツァルト／ベートーヴェンの美しいピアノの為の小品、そして管楽器とともに演奏される五重奏は作られた当時の美しい音色で必ず多くの聴衆を魅了してやまない。そしてプレーヤーのわかり易い司会で楽器の話や、作曲家の秘話など織り交ぜ、親しみ易く親子でも楽しむことができるコンサートだ。

プログラム Program

モーツァルト Wolfgang Amadeus Mozart(1756.1.27-1791.12.5)

ピアノ、オーボエ、クラリネット、ホルンとファゴットの為の五重奏曲 変ホ長調 K.452
キラキラ星変奏曲K.397(ピアノソロ)
トルコ行進曲(ピアノソナタ 第11番 イ長調 K.331 第3楽章)

シュターミッツ Carl Stamitz(1745.5.7-1801.11.9)

管楽四重奏 各楽器による小品と簡単な説明

ベートーヴェン Ludwig van Beethoven(1770.12.16-1827.3.26)

エリーゼのために イ短調 WoO.59
月光(ピアノソナタ第14番 嬰ハ短調 op.27の2 第1楽章)
ピアノ、オーボエ、クラリネット、ホルンとファゴットの為の五重奏曲 変ホ長調 op.1

2021年12月8日(水)

17:00開演(16:00開場)

高崎芸術劇場 音楽ホール

全席自由 3,000円 学生 2,000円 親子券* 4,000円

*親子券は大人1名、小学生以下(未就学児も可)1名のペアチケット

主催:株式会社 空間あい 後援:上毛新聞社 ラジオ高崎

プレイガイド

■ 高崎芸術劇場2F チケットカウンター

TEL.027-321-3900(10:00~18:00)

■ 窓口販売(8:30~17:15)

- ・群馬音楽センター(月休)
- ・高崎市文化会館(月休)
- ・高崎シティギャラリー
- ・箕郷文化会館(月・火休)
- ・新町文化ホール(月・火休)
- ・榛名文化会館エコー(月・火休)
- ・吉井文化会館(月・火休)
- ・高崎市倉渕支所地域振興課(土・日・祝休)
- ・高崎市群馬支所地域振興課(土・日・祝休)

■ 株式会社 空間あい 090-1815-4608 kuukan.ai@gmail.com

ゆうちょ銀行 振替口座 00280-2-141735 カ)クウカンアイ

※上記にご送金いただければチケットを送付します。

ホームページ <https://kuukanai.com> (近日公開予定)

コロナ禍を乗り越えて想う

空間あい サロンコンサート Vol. VI

トッカータとフーガニ短調の作品で知られる大バッハ(1685-1750)が産声をあげる一世紀ほど前の1584年に、ポルトガルにある世界遺産エヴォラ大聖堂を訪れた天正遣欧使節団の少年が三段式のパイプオルガンを弾いた記録が残っている。今から約440年前1582年(天正10年)に天正遣欧使節団がローマに派遣され、2年半後にヨーロッパに上陸。1584年にここエヴォラ大聖堂を訪れている。その折りに、伊東マンショと千々石ミゲルがこのパイプオルガンを弾き、この演奏を聴いた市民はいたく感動したといわれている。その時のパイプオルガン、400年以上経った今でも健在である。実は少年たちは日本のセミナリオ時代からラテン語、西洋音楽を学んでおり、ヨーロッパへ向かう途中も学習を怠らなかった。

新春、NHK時代劇「大岡越前スペシャル」をみて、大岡越前が白洲にて、吉原での遊女で父親の仇に老中に短刀を向けた武士の娘、それを助ける病魔におかされ余命いくばくもない浪人に対して、裁きとして武士の娘に浪人の死をみとるという大岡裁きだった。映像では、裁きの瞬間から看取るまで、モーツァルトのレクイエムが流れ、モーツァルトの音楽が時代劇の中で自然に感じられた。大岡越前やそしてモーツァルト、ベートーヴェンは、18世紀にともに生きたこと、そして江戸時代の鎖国によって途切れながらも、大航海時代に、鉄砲とキリスト教ともにもたらされた西洋音楽が生き続けていると感じた。洋の東西を問わず、音楽とはいったい何なのか。人間と音楽、社会と音楽、音楽という不思議な人間の営みが、私たちの内面に深くかかわっていることを、このコロナ禍で、感じていただけると確信している。

(株)空間あい 新井 浄

新井 浄

PROFILE

小野智子 (オーボエ)

Tomoko Ono, Oboe

千葉県出身。13歳でモダンオーボエを始める。洗足学園音楽大学卒業。モダンオーボエを小林裕、小川綾子の各氏に師事。大学卒業後、バロックオーボエに出会い、三宮正満氏に師事。ウルビーノの古楽講習会にてアルフレド・ベルナルディーニ氏のマスタークラスを受講。パリにてアントワーン・トゥルンツィク氏のレッスンを受講。これまでにアンサンブル室町、ヘンデル・フェスティバル・ジャパン、パーセル・プロジェクトなどの公演の他、ヘンデルのオペラや、ラモーのオペラ・バレの公演に参加。モダン、クラシカルオーボエでの演奏活動も行っている。

柴欽也 (クラリネット)

Kinya Shiba, Clarinet

国立音楽大学を経て渡仏。ルーアン国立音楽院、パリ・エコール・ノルマル音楽院、パリ国立高等音楽院をそれぞれ首席で卒業。読売日本交響楽団クラリネット奏者。現代のクラリネット奏者として活躍しながら、古楽器のクラリネットに深い造詣を持ちオリジナルの奏法を研究している。(使用楽器：ハインリッヒ・グレンザー<ドイツ・19世紀頃>作のコピー。ドイツのシュゲルケ氏製作)

鈴木禎 (ファゴット)

Sadamu Suzuki, Fagotto

愛知県出身。国立音楽大学サクソフォン専攻卒業後ファゴットを始める。古楽奏者として、様々な時代、地域のファゴット(ドゥルチアン、バロックファゴット、クラシカルファゴット、ロマンティックファゴット、モダンファゴット等)を駆使しBach Collegium Japan等で演奏活動を行なっている他、ゲスト講師として音楽大学等でレクチャーを行っている。オーケストラ・シンポジオン、L'orchestre d'avant-garde、Contrapontメンバー。

今瀬康夫 (ホルン)

Yasuo Imase, Horn

国立音楽大学在学中より演奏活動を始め、オーケストラ、編曲、吹奏楽審査等多多方面で活躍。国内のみならず、英国、シンガポールなどソリストとしても招待される。ナチュラルホルンでの演奏も数多く行っている。ロシア極東連邦芸大名誉教授。(使用楽器：パリのコルトワ・フレレ氏製作、1835~40年頃のオリジナル楽器)

伊藤深雪 (フォルテ・ピアノ)

Miyuki Itou, Fortepiano

ドイツ国立ケルン音楽大学に留学し、ピアノをエッカルト・ゼルハイム教授に、アンサンブルをアマデウス弦楽四重奏団の各氏に師事する。同大学を最優秀で卒業。その後、ケルンを中心にソロおよび室内楽などで演奏活動を行なう。在学中より、ゼルハイム教授に古楽の演奏習慣を学び、フォルテピアノをアンドレアス・シュタイアー氏に師事する。'89年に帰国後は、定期的にフォルテピアノ・リサイタルを行ない、フォルテピアノのスペシャリストとして、ソロおよび室内楽で活躍している。古楽研究会嘱託講師、下野楽遊奏楽塾講師。2003年にリリースされたCDアルバム「シューベルト：ピアノソナタ第18番『幻想』、第14番』(オクタヴィア・レコード)は好評を得ている。近年ではドイツの絵本の翻訳紹介もおこなっている。(使用楽器：ヤコブ・ヴァイメス氏製作によるオリジナルのフォルテ・ピアノ/1811年製)

【会場・アクセス】

JR高崎駅東口から徒歩5分

高崎芸術劇場 音楽ホール

〒370-0841 高崎市栄町9-1 TEL.027-321-7300

※ご来場の際は、公共交通機関をご利用ください。高崎駅からはベデストリアンデッキで会場までつながっているため大変便利です。

※高崎芸術劇場に専用駐車場及び提携駐車場はありません。お車でお越しの場合は、高崎駅周辺及び高崎芸術劇場周辺の有料駐車場をご利用ください。

